

# 平成28年度入院児童生徒等への教育保障体制整備事業(秋田県)

実施時期：平成28年4月1日～平成29年3月31日

## 事業実施前の主な現状と課題

### 《現状》

○病気による長期入院や短期入退院の繰り返し等の状況となっている児童生徒に対する学習指導・支援等の実際について十分把握できていない

### 《課題》

- '病弱教育のセンター的機能を担う体制が十分周知されておらず、小・中学校からの支援の要望が届きにくいこと
- '小・中学校や学級担任を務める教員に病弱指導のノウハウがないことが多く、病気の状態に応じた配慮の仕方等がわかっていないこと



## 本事業を踏まえて行った主な対策

- ①病弱教育アドバイザーを配置し、県内の市町村教育委員会や医療機関等を訪問することによって、関係機関の連携体制を構築
- ②小・中学校の病弱教育担当教員に対する病弱教育に関する研修会の実施。また、センター的機能の一環として行った病弱・身体虚弱特別支援学級の訪問による、学習指導に関する相談支援の実施など、指導内容等に関する取組
- ③事業内容を評価し、県内の病弱教育の在り方を検討するため、外部委員による病弱教育推進協議会を年2回実施



## 主な事業の成果

- ①'関係機関に対して病弱教育についての情報を提供する機会が増加。また、直接訪問することにより、病弱教育アドバイザーの存在や活動が理解され、直接相談を受けるケースもあり、現場の支援の要望に応えることができた。
- ②'研修会を年2回実施し、講演等で病弱教育について情報の提供を行い、各校の情報交換の場を設けることで、病弱・身体虚弱特別支援学級担任のネットワークづくりの一助を担った。また、病弱・身体虚弱特別支援学級の設置校訪問により、児童生徒の実態や教室環境、支援の実際を踏まえた助言や提案を行うことが可能となった。
- ③'幅広い分野の委員から意見をくみ取り、事業内容の成果と課題を整理することができた。

## 主な事業実施後の課題

- ・事業担当校における病弱教育に関するセンター的機能の強化 (➡病弱教育コーディネーターの配置)
- ・県内における病弱教育の実践情報の蓄積、共有するための仕組みの構築 (➡県としての病弱教育に関する情報を発信するデータベース等を作成予定)